

案件概要書

2017 年 12 月 19 日

1. 基本情報

- (1) 国名：マダガスカル共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：アロチャ・マングル県ムラマンガ市近郊（人口約 28 万人）
- (3) 案件名：アンタナナリボ・トアマシナ間経済都市軸橋梁整備計画（仏：Le Projet de Réhabilitation des Ponts sur l'Axe économique Antananarivo-Toamasina）
- (4) 事業の要約：アンタナナリボ・トアマシナ間経済都市軸橋梁整備計画は、アンタナナリボ市とトアマシナ市を繋ぐ国道 2 号線上に位置するマングル橋とアンツァパザナ・アンチリナラ橋の架け替えによる 2 車線化とアクセス道路の整備を行うことにより、同区間における輸送能力の改善を図り、もって国内及び周辺国における物流の活性化に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

マダガスカルは、東部・南部アフリカの玄関口に位置するインド洋の要衝であり、我が国が推進する「自由で開かれたインド太平洋戦略」を具体化し、アジアとアフリカの連結性を強化する上で、重要な役割を果たし得る。同国は国際場裏において基本的に我が国と立場を同じくする友好国であり、開発協力による更なる関係強化が重要である。

また、同国は鉱物・石油資源や水産資源にも恵まれており、2 千万人以上の国内市場を有することから、インフラ投資等によるビジネス環境整備は、我が国企業の進出を後押しする観点からも重要である。

我が国は、昨年 8 月に開催した TICADVI において、「約 100 億ドル（約 1 兆円）の質の高いインフラ投資」を表明しており、本計画はこれを具体化するものである。

- (2) 当該国における運輸セクター開発の現状・課題及び本計画の位置付け

トアマシナ港はマダガスカルにおける国際貨物の約 90%を取り扱う国内最大の商業港であり、同港の荷揚貨物の 75%は国道 2 号線（2 車線（片側 1 車線）、総延長 354 km）を経て国内総生産の約 30%を占める政治経済の中心地、アンタナナリボへ輸送されている。円借款「トアマシナ港拡張計画」を通じて 2035 年には同港で荷揚げされる国内向けコンテナ貨物量が現在の約 4 倍になることが予想されている（トアマシナ港拡張事業実施支援、業務完了報告書、2015 年）が、マダガスカル共和国の物流幹線である国道 2 号線のうち最後の単線箇所であるマングル橋とアンツァパザナ・アンチリナラ橋では車両が擦れ違うことができず、日常的に大規模な渋滞が発生している。また、建設後約 50 年以上が経過し老朽化と部材の損傷が進行している他、歩車道が分離されていないため交通事故の危険性も高い。

同国の国家開発計画（PND、2015～2019）では柱の一つに「インクルーシブな

成長と調和のとれた国土整備」が掲げられ、経済成長のための基幹インフラ整備が最重要課題の一つと位置付けられている。また、上記 2 都市を結ぶ地域は経済成長を牽引する戦略的地域と位置付けられている。本計画は、同 2 橋梁を 2 車線（片側 1 車線）化することにより渋滞を解消し、かつ橋梁の安全性向上を図るものである。この架橋が開発計画調査型技術協力「アンタナナリボ・トアマシナ経済都市軸総合開発計画策定プロジェクト（TaToM）」（2017-18）にて作成中のマスタープラン案においても 2 都市を結ぶ戦略的経済圏の成長に不可欠な事業と位置付けられていることから、本計画の優先度は高い。

(3) 運輸交通セクターに対する我が国の協力方針等と本計画の位置付け

対マダガスカル共和国事業展開計画（2016 年 4 月）における重点課題としてインフラ整備（運輸交通・電力）が定められ、過去には「国道 7 号線バイパス建設計画」（無償）や「首都圏周辺地理情報システムデータベース作成調査」（技術協力）が実施されている。本計画はこうした方針に合致する。

(4) 他の援助機関の対応

EU、世界銀行、アフリカ開発銀行が中心となり、主に都市間の主要幹線道路の整備を行うと共に道路の維持管理体制強化に向けた支援を実施している。本計画とこれら他ドナー事業との重複は無い。

(5) 本計画を実施する開発政策上の意義

本計画は同国の開発課題・開発政策並びに我が国の協力方針に合致し、インフラ整備を通じて幹線物流・交通の活性化に資するものであり、SDGs ゴール 8 でも言及されている経済成長及びゴール 9 で言及のあるレジリエントなインフラ構築に貢献すると考えられる。また、ニッケル等の鉱物資源の開発・物流に関わる本邦企業を念頭に置いたビジネス環境改善のためのインフラ整備支援としての意義も認められる。以上のことから、本計画の実施を支援する必要性は高い。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本計画はアンタナナリボ市とトアマシナ市を繋ぐ国道 2 号線上に位置するマングル橋とアンツァパザナ・アンチリナラ橋の架け替えによる 2 車線化とアクセス道路の整備を行うことにより、同区間における輸送能力の改善を図り、もって国内及び周辺国における物流の活性化に寄与するもの。

② 事業内容

ア) 施設、機材等の内容：二橋梁建設（①マングル橋：全長約 78m/2 車線、②アンツァパザナ・アンチリナラ橋：全長約 30m/2 車線）、アクセス道路整備（①延長 400～600m、②延長 300～500m）

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、施工監理

ウ) 調達・施工方法：協力準備調査にて確認する。

③ 他の JICA 事業との関係：複数交通機関による輸送網の強化と包括的な都市開発を目指す開発計画調査型技術協力「アンタナナリボ・トアマシナ経済都市軸総

合開発計画策定プロジェクト（TaToM）」（2017-18）と貿易の活性化に寄与する円借款「トアマシナ港拡張計画」（2017-27）を実施中であり、本計画は前者の短期的優先案件でありかつ後者による物流の活性化に対応した運輸交通体制を整備するものである。

(2) 事業実施体制

- ① 事業実施機関／実施体制：公共事業省（Ministère des Travaux Publics: MTP）
- ② 他機関との連携・役割分担：協力準備調査にて確認する。
- ③ 運営／維持管理体制：MTP の下部機関マダガスカル道路公社（Autorité Routière de Madagascar : ARM）が定期的な維持管理を実施する。ARM の予算は MTP 省が所管する軸重税等から配賦される。無償資金協力「国道 2 号線 3 橋梁改善計画」（1995 年）以降、継続的な維持管理体制が構築されており維持管理体制は適切であると判断される。

(3) 環境社会配慮

- ① カテゴリ分類 ☐A ☒B ☐C ☐FI
- ② カテゴリ分類の根拠：本計画は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路、橋梁セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

(4) 横断的事項：気候変動対策（緩和策）に資する可能性がある。詳細は協力準備調査にて確認する。

(5) ジェンダー分類：ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件

(6) その他特記事項：鉱物資源の開発等に関わる本邦企業の活動への貢献が見込まれる。また、当該企業と連携を取りながら案件形成、実施を行っていく。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

ボリビア多民族国への無償資金協力「日本・ボリビア友好橋改修計画」等の橋梁案件に関する事後評価（2011 年）では、橋梁の長寿命化のため定期点検及び維持管理の重要性が指摘されており、メンテナンスや改修を問題が軽微な段階で対処できるような維持管理サイクルの構築を行う必要があると指摘されている。本計画においても協力準備調査を通じ 2 橋梁の維持管理体制を改めて確認し、必要に応じて体制の強化をはかることとする。

以 上

[別添資料] 地図

〔別添資料〕 地図 アンタナナリボ・トアマシナ間経済都市軸橋梁整備計画

